

サイバードホールディングスの マネジメント・バイアウト実施について

～ 次なる成長ステージへ向けて～

2007年10月31日



1. マネジメント・バイアウトを提案した背景

モバイルコンテンツ事業

モバイルコンテンツ市場のパイオニア

占いスポーツ音楽等あらゆるカテゴリーのコンテンツノウハウを保有

約500万人のモバイルユーザーに、約250サイトを提供

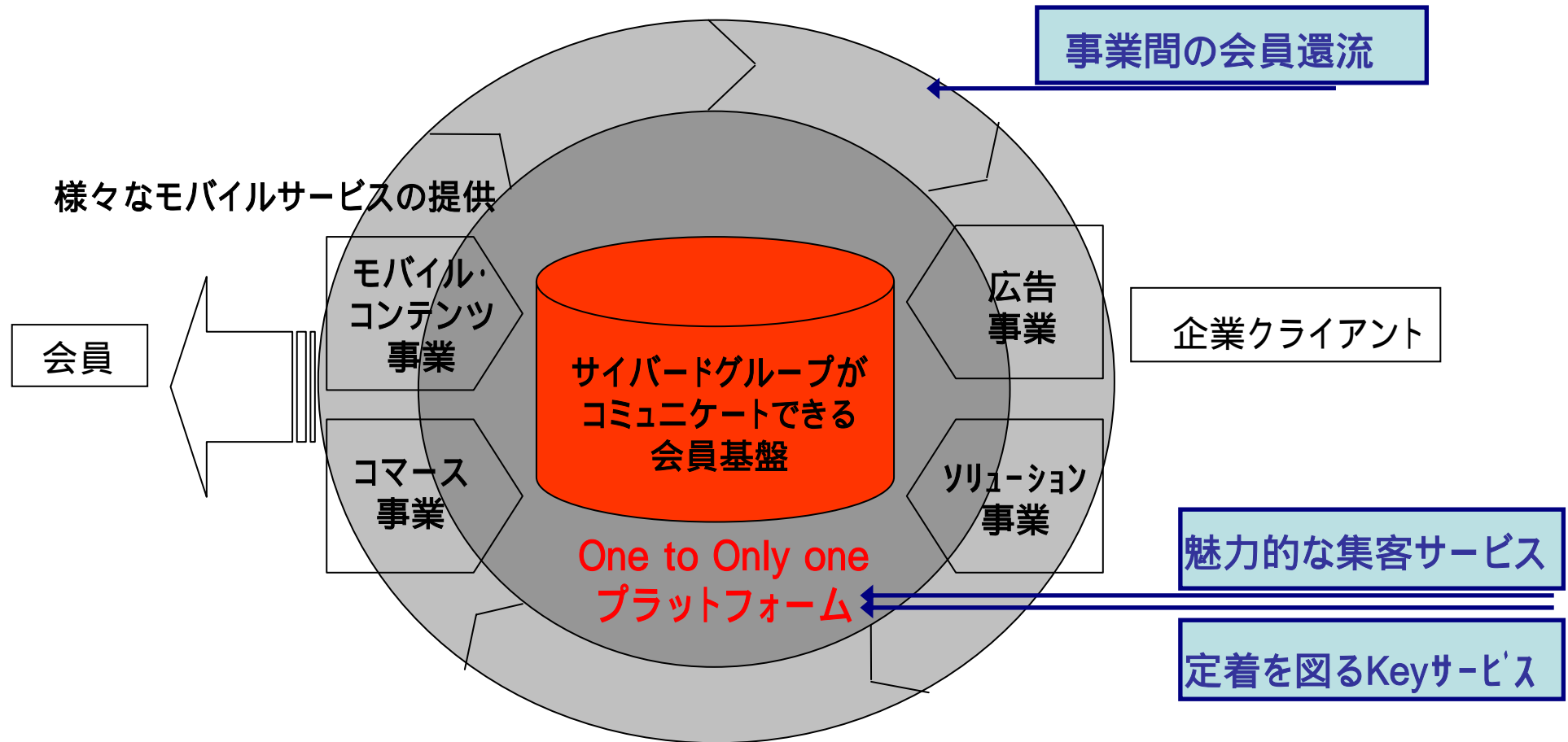
コマース事業

徹底的なマーケティングとCRMにより

美容液ファンデーション市場において3年連続で売上高1位を達成

顧客より非常に高い評価を受けている

既存の主力事業は堅調に成長
これらの市場は今後とも一定程度の成長見込み



プラットフォーム上の会員を、既存事業に還流することにより収益力強化を図り、更に各事業で獲得した会員の循環を図り、収益機会の最大化を目指す

中期的な企業価値向上の為に...

- ✓メディア価値の高いプラットフォームの構築を推進
- ✓新製品の投入によるプロダクトポートフォリオの強化
- ✓会員基盤拡充のための積極的な広告宣伝の展開



アクション実行のため、体制の整備と
短期的業績に左右されない一定程度の先行投資が必要

短期的に...

- ✓業績の成長鈍化が生じる懸念があり、株主様の期待に沿えない可能性があり、株価の不安定化によるリスクを株主様に負っていただく事を回避
- ✓市場環境の変化により生じる事業機会に対応するため、経営の意思決定ラインを特定株主に一本化し、経営資源の選択と集中について迅速な意思決定を行うことが必須



中長期的な支援に必要な実績および経験を有するロングリーチグループをパートナーとしてマネジメントバイアウト(MBO)の手法による非公開化を行い、その株主の元、事業推進を行うことが最善であると判断

サイバードグループの事業、特にモバイル事業に対する理解度が深く、今後のモバイル市場の展開についても非常に明確でポジティブなビジョンを有する

ロングリーチの持つIT業界における深い知識を活用できる

ロングリーチが有する金融ノウハウを、金融 + モバイルという事業面と財務戦略の立案・実行による財務基盤の強化といった経営基盤面の双方で活用

ロングリーチから今後の成長に必要な資金提供や人材の紹介、コーポレート・ガバナンスにかかる助言を受けることができる



2. ロングリーチグループについて

- 2003年10月に設立された独立系投資会社
- 日本企業の事業成長と国際競争力の実現を目指し、中長期的な視点から戦略的資本と経営アドバイスを提供
- 基本姿勢は、「グローバルな付加価値提供力」と「ローカル文化の理解に基づく信頼経営」の融合
- 投資先の経営陣および従業員の皆さまと共に、新たな価値向上を目指す
- バイアウト投資、M&A、IPO、企業再生において経験豊富なスタッフを擁する

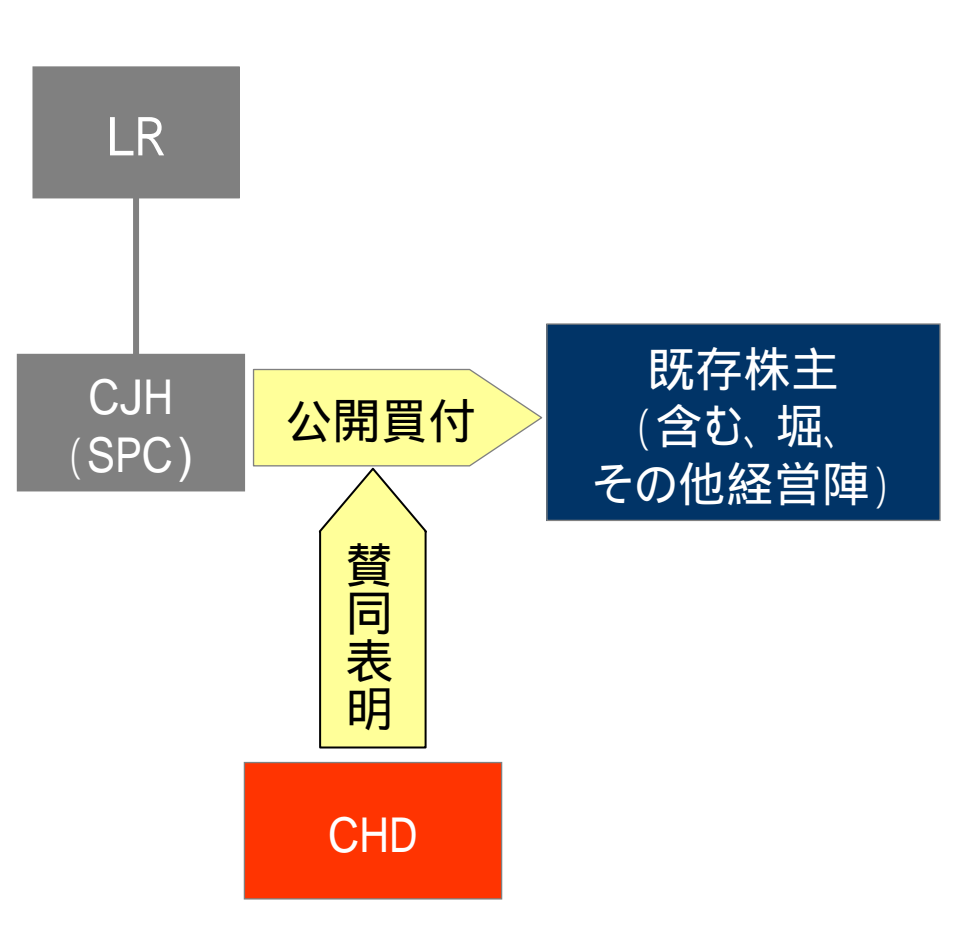
名称	ロングリーチグループ (The Longreach Group)
拠点	東京、香港、上海
設立	2003年10月
ファンド概要	現在コミットメント残高： 約825億円
業務内容	日本・アジアを対象とした独立系プライベートエクイティファンドの運用およびアドバイザーサービス
共同設立者	Mark Chiba (グループチェアマン兼取締役パートナー) 元UBS証券会社 CEO兼投資銀行部門責任者 吉沢 正道 (代表取締役兼パートナー) 元モルガンスタンレー証券 投資銀行部門テクノロジー担当責任者 三好 康之 (代表取締役兼パートナー) 元メリルリンチ日本証券 企業再生部門責任者、債券資本市場部門責任者 杉本 友哉 (プリンシパル) 元モルガンスタンレー証券 投資銀行部門 エグゼクティブディレクター

- ロングリーチグループは、サイバードホールディングスのコンテンツ事業及びコマース事業におけるコンテンツ・商品開発力、会員ベース、コマース事業の広告ノウハウなどの既存の事業基盤を高く評価している
- マネジメント・バイアウト後に経営陣が積極的に取り組む予定のプラットフォーム構築について、大きな潜在力を期待している
- 業界のパイオニアである堀氏をはじめとする現経営陣と、ロングリーチグループの投資チームとが相互の信頼関係をもとに協業し、将来の企業価値向上を実現できると確信した

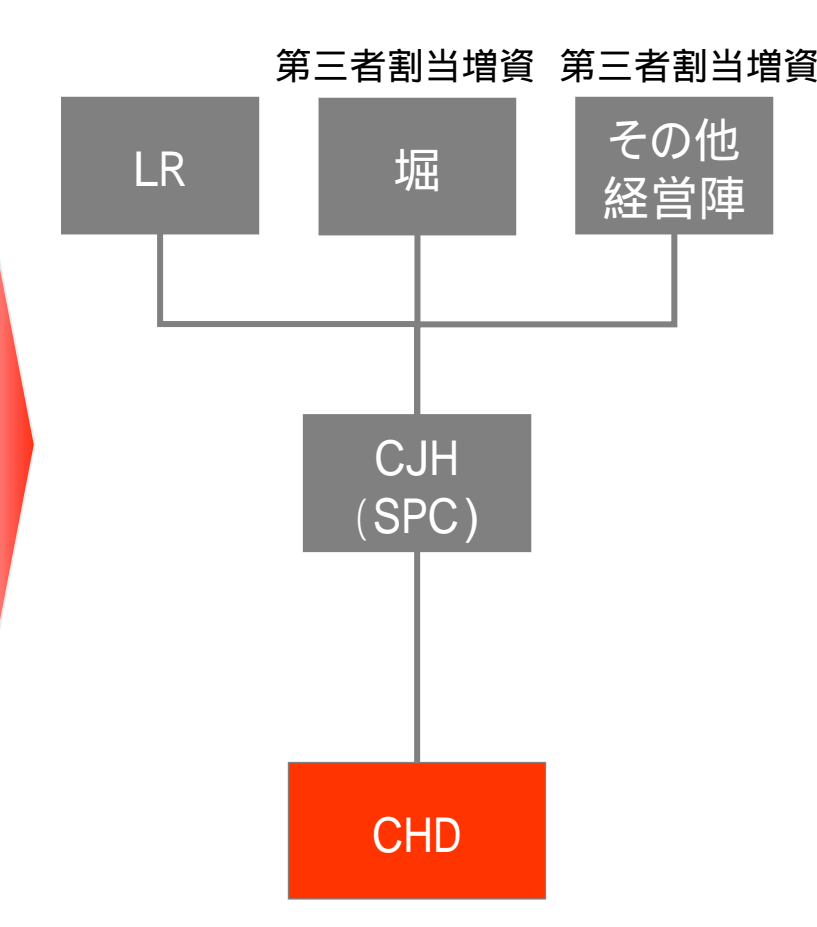


3. マネージメントバイアウトのスキーム

第1段階



第2段階



LR: ロングリーチグループ

CJH: CJホールディングス

CHD: サイバードホールディングス

公開買付期間

明日11月1日より12月13日まで（30営業日）

買付価格

一株につき60,000円。直近3ヶ月平均株価よりも40.8%上回る価格

買付予定株式数

203,282株（自己株式を除く完全希薄後株式総数の3分の2）以上の株主の方にご応募・ご賛同頂いた場合、応募された株式の全てを買い取る

臨時株主総会

- 全ての普通株式に全部取得条項が付される
- 全ての全部取得条項付株式がCHDに取得され、株主には対価として別個のCHD株式が交付される

上場廃止

- 交付されるべき株式の数が1株未満となる株主に対しては、当該端数の合計数を売却することによって得られる金銭が交付される

その後

ロングリーチ
(大半を出資予定)

新会社

堀
その他経営陣
(出資予定)



4. マネージメントバイアウトへの賛同理由

● 第三者委員会の設置

今回の公開買付提案を検討するにあたり、サイバードホールディングス取締役会は、サイバードホールディングスおよび公開買付者から独立したメンバーから構成される第三者委員会を設置

● マネジメント・バイアウトの目的の妥当性の検証

第三者委員会は公開買付者と複数回、本提案の妥当性、買付価格を含む条件面を検討し、サイバードホールディングス取締役会に答申

「買い手」が検討している経営戦略が当社の企業価値向上に資するものであると考えられること、他方で当該戦略の実行は先行投資を伴うものであって短期的な成長鈍化のリスクがあり当社一般株主の皆様にかかるリスク負担を求めることを回避する必要があることから、マネジメント・バイアウトの目的に妥当性が認められると判断

● 公開買付価格の妥当性の検証

既存株主に対して当社株式の市場株価に十分なプレミアムをつけた買付価格が提示されたと判断

● 株主利益に配慮した手続の確保

本公開買付では、以下のとおり、一般株主の皆様の利益に配慮した手続が確保されているものと判断。

株主の適切な判断機会の確保

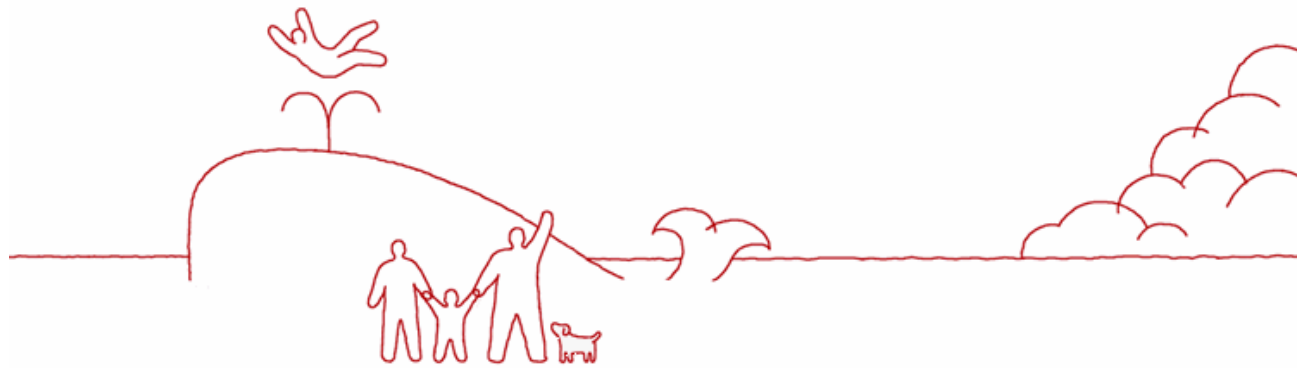
- 公開買付届出書において、公開買付の背景、理由、価格の算定の経緯を説明するなど、株主の皆様への適切な判断の機会を確保
- マネジメントがロングリーチグループとの間で締結した契約の概要の開示
- スクイズアウトに際して、株式買取請求権・価格決定請求権を確保するスキームを採用
- 特段の事情がない限り、公開買付け後にスクイズアウトを実施する予定
- 特段の事情がない限り、スクイズアウトの価格は公開買付価格と同一の価格を基準とする予定

意思決定過程における恣意性の排除

- 当社及び公開買付者から独立したメンバーから構成される第三者委員会を設定し、マネジメント・バイアウトの是非及び条件について諮問
- 第三者委員会は、複数回、本件取引の妥当性、買付価格を含む条件を検討するとともに、公開買付者との間で交渉
- 取締役及び監査役全員の承認
- 意思決定方法に関し、当社及び公開買付者から独立した弁護士およびファイナンシャルアドバイザーの選任
- ファイナンシャルアドバイザーからの株価算定報告書の取得
- 弁護士からの法律意見書の取得

価格の適正性を担保する客観的状況の確保

- 公開買付期間を30営業日に設定
- 公開買付期間中(対抗公開買付がある場合には当該公開買付が終わるまで)、当社買収防衛策が停止され、公開買付成立時には完全に廃止される



サイバードホールディングスの マネジメント・バイアウト実施について

～ 次なる成長ステージへ向けて～

2007年10月31日